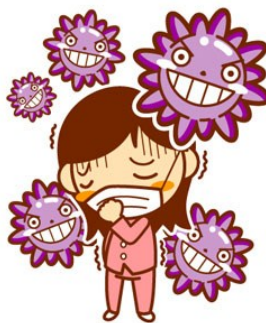


インフルエンザ 2011-12シーズンのまとめ

目次:

インフルエンザ 2011-12シーズンの まとめ	1 2
特診外来予定表	3
放射線について正しく 理解するために	4 5
上五島病院からの お知らせ	5
富士山の山開きにつ いて	6

毎年、ご協力を頂いていますインフルエンザ対策ですが、2011-2012年シーズンもやっと終焉を迎えることが出来ました。今年の特徴などを踏まえながらまとめを作ることで、来年の対策になればと思っております。



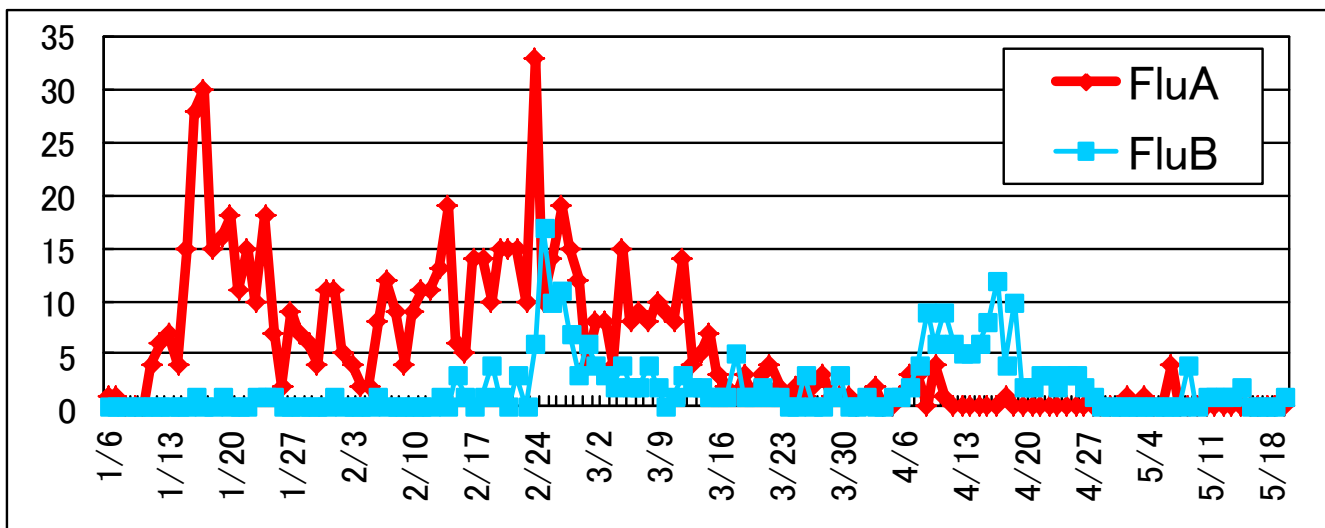
上五島地区は、島内病院・診療所のご協力を得て、全患者数把握を行っております。どこの地区で集団発生しているかなど、早期把握が可能となっており、診断の一助となっております。これらの患者数把握からのまとめとお考え下さい。また上五島病院では、長崎大学熱帯医学研究所と共同でウイルス研究を行っております。これについてもまとめが出来ましたら御報告させていただきます。ご協力ありがとうございました。

1. 患者数

上五島地区のインフルエンザ診断患者数は1010人でした。平成24年1月6日に第1例目のインフルエンザA型発生後、A型に関しては総患者数が746人、1月17日と2月24日の二峰性のピークを作り徐々に減少しました。B型に関しては総患者数が254人、2月25日と4月17日に小さいピークを迎えて終了しました。

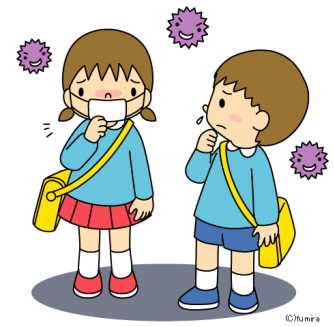


【グラフ1:上五島地区 日別A型B型別患者発生数】

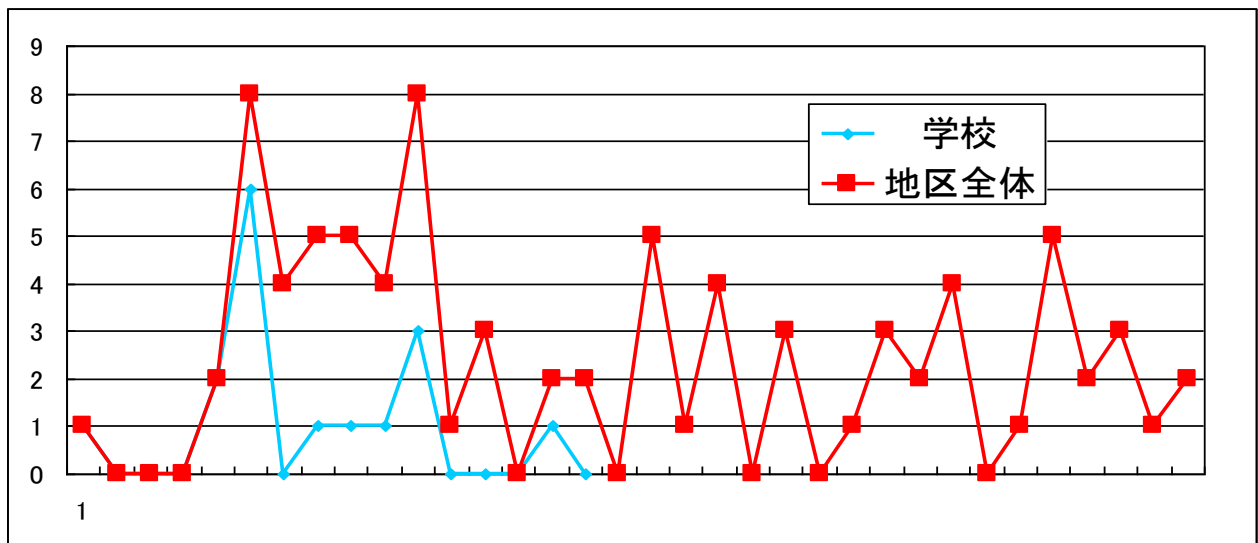


2. どのように拡がるのか？

今年流行したある学校と、その地区の全患者発生をグラフにしてみました。先行して学校で流行が発生し、その周囲の兄弟、父母、祖父母と拡大しました。保育所、幼稚園、学校という子供たちの集団は流行を作り出す発生母地としては最適で、早期に対応しなければ、一気に拡がるということを我々は何度も経験してきました。最初発生した学校は1週間程度で落ち着きますが、周囲は遅れて拡大が発生します。落ち着いたはずの学校へ再上陸したり、輪をかけて拡大が起こります。どう対応をしていけばいいのか…。



【グラフ2:ある地区の学校と地区の患者数推移】



3. 終わりに

今年のインフルエンザの特徴は、その症状の軽さでした。発熱を認めず、咳嗽・倦怠のみという人が約2～3%。1日で解熱してしまったという人は全体の3～4割に到達します。1日で下がったから、あまり高い熱ではないから…という人の中にも、インフルエンザがいるということです。また咳嗽もなく、発熱・嘔吐・下痢だけという腸炎症状のみの方が約1%。下痢しかないのに、検査をするのは何故か？と質問を受けましたが、インフルエンザの可能性がある訳です。「そんなの見たことない！」と、憤慨された人もいます。…1%の発生確率であれば、100回インフルエンザに罹れば1回経験出来るかもしれません。可能性としては、無症状のインフルエンザもありうるでしょうし…。

では、全員が軽い症状だったのか…。直接的ではありませんでしたが、間接的にインフルエンザ感染が契機となって亡くなった方が数名いらっしゃいます。インフルエンザによる超過死亡と表現しますが、決して簡単に考えてはならない感染症なのです。ご老人、小さい乳幼児に関しては、怖い感染症です。元気な学童～壮年期の人間が拡大させ、これらインフルエンザに弱い人に伝播させるという現状は、打破したいものです。

外来で「インフルエンザ、友達に(周囲に)伝染したら、嫌でしょう？」と質問すると、「たいした症状じゃないし…」、「関係ないし…」、「別に…」という回答が返ってくる事があります。付き添いの方に同様の質問をしても、同じ回答になる場合があります。非常に悲しい事です。インフルエンザは人に伝染さないこと…、長年言い続けて来ましたが、なかなか伝わらないものです。

(小児科 小森 一広)



平成24年7月の特診外来予定表

	泌尿器科	耳鼻科	循環器科	神経内科	皮膚科
7月2日(月)		原先生 午前(10時～)、午後			
7月3日(火)		原先生 午前	武野先生 午前(10時～)、午後		
7月4日(水)					清水先生 午前
7月5日(木)	大仁田先生 午前(10時～)、午後				
7月6日(金)	大仁田先生 午前、午後(~16時)				
7月9日(月)		穂山先生 午前(10時～)、午後		調先生 午前	
7月10日(火)		穂山先生 午前			
7月11日(水)					小川先生 午前
7月12日(木)	宮田先生 午前(10時～)、午後				
7月13日(金)	宮田先生 午前、午後(~16時)				
7月16日(祝)					
7月17日(火)		山口先生 午前	深江先生 午前(10時～)、午後		
7月18日(水)					鋤塚先生 午前
7月19日(木)	志田先生 午前(10時～)、午後				
7月20日(金)	志田先生 午前、午後(~16時)				
7月23日(月)		畑地先生 午前(10時～)、午後			
7月24日(火)		畑地先生 午前			
7月25日(水)					竹中先生 午前
7月26日(木)	松尾先生 午前(10時～)、午後				
7月27日(金)	松尾先生 午前、午後(~16時)				
7月30日(月)		山口先生 午前(10時～)、午後			
7月31日(火)		山口先生 午前	武野先生 午前(10時～)、午後		

※赤字の診察は予約・紹介予約の患者さんのみです。

※船の欠航等により、予定は変更となる場合があります。ご了承ください。

放射線について正しく理解するために

平成23年3月11日に発生した事故により東京電力福島第一原子力発電所から漏出した放射性物質の人体への影響などに関して、TVや新聞でよくとりあげられています。しかし、不安を煽るばかりで、実際にどの程度危険なのか、どのくらいなら安全なのかを教えてくださいとところはあまりありません。そこで今回は放射線についてお話したいと思います。

■放射線による影響

放射線の人体に対する影響として、「確定的影響」と「確率的影響」の二つがあります。

・「**確定的影響**」…白血球の減少や脱毛のような、「しきい値」と呼ばれる線量を超える放射線を受けたときだけ現れ、ある一定の値以下では影響が出ないもの。

・「**確率的影響**」…しきい値が存在せず線量に比例してがんの発生確率などがかわるもの。つまり、放射線にたくさんあたると、それに比例して影響がでるもの。

今回の漏出した放射性物質による一般の人々の被ばくは、このうちしきい値がない「確率的影響」に関するものです。国立がん研究センターの「多目的コホート研究」によれば、100 mSv 以下の放射線により増加するがんの確率は、受動喫煙や野菜摂取不足によるがんの増加より小さいとされています。

被ばく線量		生活習慣
1000～2000mSv	1.8	
	1.6	喫煙者
500～1000mSv		大量飲酒(450g以上/週)
	1.4	大量飲酒(300g以上/週)
	1.29	やせ(BMI<19)
200～500mSv	1.22	肥満(BMI≥30)
	1.19	運動不足
	1.15	高塩分食品
100～200mSv	1.08	
	1.06	野菜不足
	1.02	受動喫煙(非喫煙女性)

※真ん中の数字は発がんリスク、飲酒量はエタノール換算16度の日本酒だと1日2.8合飲酒で週450gのエタノール摂取 [日本がんセンターHPから改変]

■Sv(シーベルト)って?Bq(ベクレル)って?違いはなに?

さてmSv(ミリシーベルト)という単位がでてきましたので、メディアでよく耳にするSvとBqの説明をさせていただきます。

・**Sv(シーベルト)**…放射線を人体が浴びたとき(被ばくしたとき)に、生物学的に影響を受ける大きさ。

・**Bq(ベクレル)**…放射能の量を表す単位。

同じ量の放射能(Bq)が存在しても、それから受ける放射線の強さは、放射性物質の種類や測定点までの距離、間にある遮蔽物の有無によって変わってきます。さらに人体の影響は放射線の種類によっても変わるため、様々な影響を考慮して算出した単位をSv(シーベルト)といいます。

つまり、Bqとはその物質本来の放射能であり、Svとは人体に与える影響の強さとして色々な補正をした値です。



■生活の中の放射線

では実際に一般の生活でどの程度の放射線を被ばくしているのか見ていきましょう。

放射線というのは意外と身近にあるもので、普通に生活しているだけでも日本で年間1.4mSv(世界平均2.4mSv)の放射線を被ばくしています。これは自然放射線といって、主に、宇宙から降ってくる宇宙線、もともと地殻、建材などに含まれている放射性物質からの放射線、また体内にあるカリウム40などから発生する放射線、空気中に含まれるラドンから発生する放射線などから一年間で被ばくする線量です。

次に医療被ばくですが、これは医療を行う上で放射線を被ばくするデメリットよりも、それにより、検査、治療を行うメリットの方が明らかに高い場合に行われます。

よく検診を行うときに撮影する胸のレントゲンが一回につき0.1mSv

胸のCT検査が6mSv(CT装置や撮影方により増減します)

もちろんこの数値は平均値であり、検査する場所、装置、個人的体格差などでも増減していきます。



最後に、マスコミから風評被害を受けている農作物について実際に摂取した場合にどれくらいの被爆をするのか計算してみましょう。

日本人がおそらく一年間で一番食べるであろう「お米」を例にします。

農水省によると日本人が一年間で消費するお米は一人当たり60kgとされています。

まず、ありえないですがこのお米から国の基準値ギリギリである1kgあたり500Bqの放射能(セシウム137)が検出されたとします。すると一年間で60kg×500Bq=30000Bqの放射性物質を体内に取り込んだこととなります。これに色々な補正をして、人体に影響を与えるであろうシーベルトに直すと、一年間で人体が被ばくする線量は0.39mSvとなります。上の自然放射線や、医療被ばくとくらべていかがでしょうか？人体に影響を与えている100mSvにも遠く及ばないことがわかんと思います。いかにマスコミがいい加減で無責任な報道をしているかわかりいただけでしょうか。

放射線というのは目に見えない、臭いもしない、浴びているのかどうかすらわからないものです。それゆえに不安になる方がたくさんいるのも分かります。しかし、ちゃんとした知識をもって、管理できるのであれば非常に便利なものであるのも確かです。これを機会に放射線に対する知識を少しでももって、風評被害にあっている農家、漁師、観光地に対する偏見が緩和されることを願っております。

(診療放射線技師 前田 佳宣)

上五島病院からのお知らせ

高原医師赴任にともない、7月1日から産婦人科外来は下記のようになります。よろしくお願いいたします。



		月	火	水	木	金
産婦人科	産科	高原	山口純	高原	助産師外来	高原
	婦人科	山口純	高原	山口純	高原	山口純

～ 富士山の山開きについて ～

7月になりました。別名「文月」（ふみつき）と呼ばれ、7月7日の七夕に詩歌を献じたり、書物を夜風にさらす風習があるからというのが定説のようですが、稲の穂が含む月であることから「含む月」「穂含む月」の意であるとする説もあるようです。

他にも、「秋初月」、「七夜月」、「女郎花月」、「建申月」、「親月」、「七夕月」、「桐月」、「七夜月」、「初秋」、「文披月」、「愛逢月」、「蘭月」、「涼月」などなど珍しい言い方もあるようです。みなさんはいくつご存知でしたでしょうか？読み方を含め由来などを調べてみるとなかなか面白いので、興味がわいた方は調べてみてください。



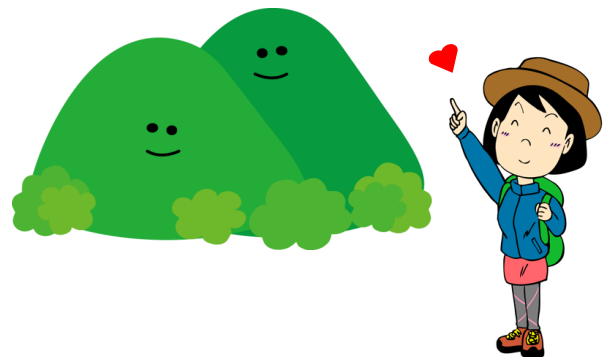
7月1日から約2ヵ月間、富士山が山開きになります。みなさんは登られたことはあるでしょうか？上五島で海開きがあるのと同じで、富士山にも山開きというものがあります。これは意外に知られていないのではないのでしょうか。私も実際に富士山に登る計画をたてるまでは知りませんでした。

富士山は日本最高峰ということもあり、さらに昨今の登山ブームに拍車をかけて登山客も年々増え、1年中登れる山だというイメージが強いですが、実際は真夏でも山頂の体感温度は0℃以下となり、登山素人には大変厳しい環境の山となっています。

「有名な山だから安全！」と驕ることなかれ、毎年数十人の遭難者がでております。これは年間ではなく、富士山が山開きするたった2ヶ月間の出来事です。高山病になるリスクも他の山より高く、ベテランの登山者の方でも少しの油断で高山病になってしまうこともしばしばあるそうです。

もし今年の夏に富士山に登る予定のあるかたは十分な準備をして登山することをおすすめします。でないと私のように高山病にかかり、御来光も十分に楽しめないまま下山するはめになります。

（広報委員会 前田・濱江）



○基本理念

地域と共に歩み、
信頼され親しまれる病院

○5つの行動目標

- ①信頼と満足の得られる医療の提供
- ②地域の基幹病院としての診療機能の充実
- ③地域における保健・医療・福祉の連携
- ④IT化によるさらなる医療の効率化
- ⑤地域における疫学研究と医療従事者の教育・研究の推進



◆ご意見、ご感想を下記までお寄せください。

長崎県上五島病院
857-4404
長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1549-11

電話 0959-52-3000
FAX 0959-52-2981
Email kamihp@gold.ocn.ne.jp
URL <http://www.kamigoto-hospital.jp>